

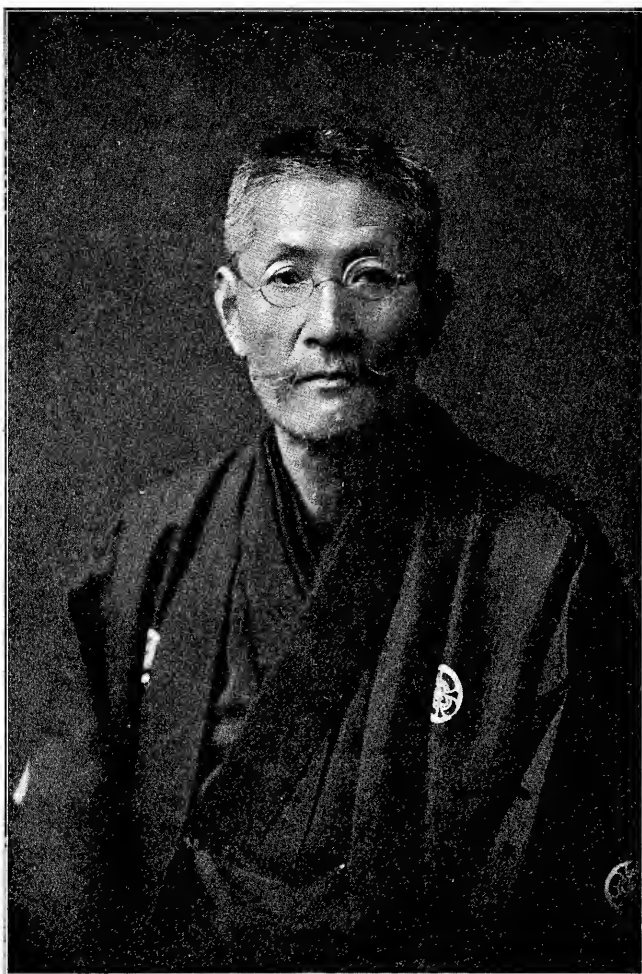
ラル、モノハひるぎ科即チ *Rhizophoraceae* ノモノデ内地デハ之ヲ實見スルノ機會ガ少ク多クハ唯僅ニ圖畫ニテ之ヲ知ルニ過ギナイ有様ナノデアル、なつみかんノ如キモ其實内ニ於テ種子ノ萌發シテ幼根ヲ數寸ノ長ニ伸スコトヲ見レドモ、直ニ之ヲ胎生果實ト同一視スルノハ稍穩當デナク聊カ類似シタル現象ト見做スベキデアラウ、然ルニ茲ニ普通ノ邦產植物デ此ノ實例トシテ適當ト思ハル、モノガアル、即チからたちばな (*Ardisia punctata* Lindl.) ガソレデアル、此植物ハ陰地ニ生ズル小灌木デアツテ其紅熟シタル果實ハ越年シテ頗ル美シイモノデアル、ソレガ初夏ノ頃ニ至レバ繖形ヲシタル果柄ニヨリテ母樹ニ着キタル儘發芽シ其胚軸ハ伸ビ幼根ハ破レタル果皮ノ外ニ現ハレ終ニ寸許ニ達シテ下垂シ而シテ自然ニ果柄ヲ離レテ落チ根ハ地中ニ穿入シテ漸次生長スルニ至ルノデアル、從テ母樹ノ下ニハ落チタル多數ノ果實ヨリ發生シタ幼植物ガ叢リ生ジテ居ルヲ見ルノデアル、私ハ此ノ事實ヲ昨年七月十九日ニ初メテ知ツタ

挿圖ノ解

1. 果柄ニ着キタル儘幼根ヲ出シタルモノ
2. 一ノ果實
3. 右ヲ廓大シタルモノニシテ、根ノ分岐シタルモノ
4. 果皮ヲ去リタルモノ
5. 胚ト胚乳トヲ分離シタルモノ

【牧野云フ】 らかんまきノ實カラモ樹上ニ在リナガラ時々幼根ヲ出シテ其レガ能ク種子下ノ赤色多肉ナル果托ニ突キ込ンデキルノヲ見受ケルガサウシタ現象ノ現ハル、樹ハ毎年其時期ガ來レバヤハリ同ジ事ヲ繰リ返シテキル

○我邦最古且ツ創刻ノ園藝書『花壇綱目』



本文ノ筆者ナル岡吉壽君(號不崩)
(昭和四年一月一日東京ニテ撮影)

我國最初ノ園藝書花壇綱目、上中下三卷三冊ハ延寶九年(辛酉)ニ刊行セラレシモノニシテ其以前ハ寫本ニテ世

不崩 岡

吉^{ヨシ} 壽^{ヒサ}

ニ傳ハリタルモノナリ、予ガ知ルトコロニヨレバ、甲本、寛文四年ノ序アルモノ(予ガ架藏)、乙本、序文ナク延寶九年六月ノ識語アルモノ(矢野宗幹氏藏)、丙本、寛文五年ノ序アルモノ(牧野富太郎氏藏)、丁本、寛文五年ノ序アルモノ別本(芋繁、奥村繁次郎氏舊藏)等數本アリ、刊本ハ上中下ノ三卷ニ花壇用ノ草花ヲ四季ニ分チ上卷ハ春ノ

部三十五種、夏ノ部八十一種、中卷ハ秋ノ部五十七種、冬ノ部五種、雜ノ部六種ヲ各品類ニ就テ花色、花形、花期、及ビ養土、肥料、分植等ヲ記シタルモノニシテ園藝上最モ貴重ナルモノナリ、下卷ハ諸草ヲ養フベキ土質及肥料ニ就テ詳記シ加フルニ牡丹、芍藥、菊、椿、梅、桃、櫻、躑躅ノ變種、花銘、花形付ヲ記シ、終リニ牡丹及蘭ノ培養法ヲ詳記セリ

本書ハ元祿四年ニ同一版木ヲ以テ奥附ヲ改メテ發行シ更ニ享保元年ニ全部改刻シテ發行セラレタリ、而テ其内容ハ延寶九年(天和改元)ノ初刊本ト同一ナルノミナラズ其行數字詰字形マデ全ク同ジク只享保本ハ其型稍小ナルノミ、要スルニ奥附ヲ改メタル元祿四年本モ版本ヲ異ニセル享保元年本モ内容ニ至リテハ全ク延寶九年版ト同一ナルヲ知ルベシ、然ラバ本書ノ記事ハ奥附ノ如何ニ關ハラズ延寶年代若シクハ其以前ニ於テ記述セラレタルモノナリトス、今本書ノ出版セラレシ前後ニ於ケル園藝書ノ刊行ニ就テ見ルニ先ヅ

錦繡枕

伊藤伊兵衛著 元祿五年開版 横本五冊

躑躅 皐月ニ關スル著書トシテ一般世人ニ知ラルル長生花林抄ノ原本ニシテ書名ハ自序ニ「暫時庵室を仙家のごとく思ひ肘をまげたる枕のうち錦の床の手枕となん樂むらんかし」ト、以テ錦繡枕ト名ヅケタルナリ、つゝじ、さつきノ種類ヲ著者自カラ圖記セルモノナリ

奥 附

元祿五年申初冬

作者自畫

江戸染井

さり嶋屋

伊 兵 衛 印

書林

松會三四郎開板

長生花林抄ハ内容全ク同ジク、各冊ノ内題錦繡枕卷(數)ヲ削リタルモノ、序文ヲ改メ「古にいはいく肘をまげて枕とす樂其中にあり僕がたのしみは花なり紅の色〱ある中に一花數品の變化あるものは躑躅さうしまさつきなり其かたちを委く畫き接木または土かひ養ふことまでを書あつめ一卷の草紙となし錦繡枕といふをある人壽によせて長生花林抄と號けるに亦ある人の言葉にまかせ三花類葉集とあらため梓にせし事同志にあらざる人のそしりをもとむるならんか是すなはち僕がたのしみ其中にありと見ゆるし給へかしといふ

東都 染井の翁 謹白

○□一

即チ本書ハ元祿五年ニ錦繡枕トシテ出版サレシヲ凡四十年ノ後チ享保十八年ニ外題ヲ長生花林抄ト改メテ同ジ版木ニテ再刷シ更ニ又嘉永二年ニ改補セシモノナリ

花譜

貝原益軒著

元祿十一年梓行

上中下三冊

此書 元祿七年中元日ノ自序アリ「嘗て聞見するところと驗閱するところとを纂輯して花譜三卷を作り以て之が種植と培養の法を述べ」云々トアリ

奥 附

元祿十一年戊寅九月日

東洞院通夷川上ル町

林 九 兵 衛

高辻通雁金屋町

永原屋孫兵衛

我邦最古且ツ創刻ノ園藝書『花壇綱目』

花壇地錦抄

染井三之丞著 元祿八年刊行 六冊

同 梓 行

松賀浦ノ藏六ガ元祿七年ノ序「難波の芦伊勢のはま萩」云々トアリ（地錦抄ニ就テハ別ニ詳記スベシ）

奥 附

武陽染井野人

三 之 丞 集

元祿八年

車屋町夷川角

林 久次郎

大傳馬三町目

志 村 孫 七 開版

農業全書

宮崎安貞著

元祿九年

十一冊

此書元祿丙子中和節、貝原篤信序漢文及著者ノ自序アリ、時ニ元祿九年仲冬ノ後日ナリトアリ、篤信ノ序ニ「今將に梓に鋳ひて以て其傳を廣めん、序を予以請ふ、安貞今茲七十有五、余其志を爲す老て益壯なるを感ず」云々、トアリ、後序ハ漢文ニテ「元祿丙子桂月日、後學筑前州貝原好古書」トアリ

千代見草

西京園丁著

元祿十二年 上中下三冊

菊ノ道シルベ千代見草序ニ「元祿十あまふたとせ秋のすへ菊を採日 西京園丁記」トアリ、記スルトコ口總論、菊ノ年中行事、菊ノ功用、菊ノ故事^{以上}、菊ノ和歌、詩文、本朝菊ノ名品、唐土名品^{以上}、葉形花形各八十一品^{以下}

奥 附

牡丹道知邊

杉浦宗閑著 元祿十二年 上下二冊

京師桃華坊書肆 富倉太兵衛 人見喜兵衛 繡梓

本書ハ牡丹ノ培養ニ就テ項目ヲ六十七條ニ分チテ詳細ニ記述シタルモノニシテ唯一ノ牡丹培養書ト謂ツベク、又著者ノ序文ハ園藝史ノ志料タルノミナラズ、當時牡丹栽培ノ實狀ヲ知ルヲ得ベシ、播陽散人杉岡氏梅陰軒トアリ、跋文ハ「元祿十二のとし陸月の日青白翁我黒跋」トアリ

奥附

書林 梅村玉池堂 雙梓 柳田好古堂

艸花繪前集

染井ノ伊兵衛圖 元祿十二年梓 上中下三冊

「自序元祿巳卯小春ノ日武陽染井ノ野夫書之」トアリ、奥附ハ

追而 草花繪後集此外草花品々令板者也

草花植作り様やしない仕様は地錦抄といふ草紙にしるして前に出すゆへ是に不書

元祿十二卯十月吉日

東武江北染井

耕人 伊兵衛圖

須原茂兵衛 梓

以上ノ數種アリト雖モ本書刊行以前ニハ未ダ刊本アルヲキカズ、然ラバ本書ハ園藝書トシテ我國最初ノ出版書タルノミナラズ寛文四年ノ寫本ノ傳本ハ最古ノ園藝書トシテ園藝史上特筆スベキモノナリトス、是ヨリ先キ元和寛永ノ頃、安樂庵某ノ百椿集ナルモノアリ、載テ續群書類從卷第九百四十二アリ、變種ヲ集メ一品毎ニ詩歌

ヲ配セリ、而シテ刊行本花壇綱目ハ百八十餘種ノ草花ニ就テ一々花色、花形、花期、及養土、肥料ヨリ分植ニ至ルマデ記載セル、何レモ著者ノ實驗ヨリ出デタルモノニシテ其心勞思フベキナリ、又下卷ノ牡丹、芍藥等ノ花形付ケヲ見テハ其時代ニ於ケル園藝上ノ進歩ヲ測定スルヲ得ベシ、即チ

牡丹ノ變種 四十一品 椿 六十六品 桃 八品 躑躅 百四十七品

芍藥ノ變種 三十二品 梅 五十三品 櫻 四十品・

何レモ「此花形付けの外に數多あり」云々ト記セリ、即チ是等ノ種類ノ變種ハ延寶以前ニアリテ培養サレタルモノト知ラルベク又此時代ニ於テ四季ノ草花ノ培養ヲ一々詳記セルハ殊ニ珍トスベキナリ、延寶九年即チ天和元年ハ今ヨリ二百五十年前ナリ

花壇綱目 (延寶本) 三冊

著者 水野元勝

刊行 延寶八年(天和改元)

挿圖 三

製本 竪七寸五分 横五寸四分

表紙

題簽 子持四周竪四寸九分 横一寸一分

『花壇綱目 上』楷、行、草

匡郭 四周單邊竪五寸五分―五寸九分 横四寸一分―四寸二分五厘

行數 十行

紙員 上二十五張 中十五張 下二十張

序文平假名交四張年號記名ナシ、題畫每卷一頁、上卷ハ目錄ノ前ニアリ、牡丹ノ繪「名はかりはさかても色をふかみ草花咲ならは何にみてまし」、中卷ハ目錄ノ次ニ梅ノ繪「咲つくあまた梢の梅が香をひとへになりて匂ふ春かぜ」、下卷モ目錄ノ次ニ、櫻ノ繪「春毎にみれともあかす櫻はなとしにや花の咲まざるらん」トアリ

奥附 下卷三十張裏

花段綱目卷下終

水野氏元勝

延寶九辛酉年孟夏吉旦

松井頼母後益志之

書林

村井九良兵衛
山本八兵衛
開板

花壇綱目 (元祿本)

三冊

著者 水野元勝

刊行 元祿四年

插图 三

製本 堅七寸三分 横五寸一分

表紙

題簽 『逸ス』

匡郭 行數 張數 前掲本ニ同ジ

奥附

我邦最古且ツ創刻ノ圖藝書『花壇綱目』

花段綱目卷下終

水野氏元勝

元祿四辛未年仲冬吉辰

淺野久兵衛
書林 村井九良兵衛

山本八兵衛

本書ハ前掲延寶本ト同一版本ヲ用ヒ只奥附ニ於テ年號ヲ改メ松井頼母云々ヲ削リ書林一名ヲ加ヘ開板ノ二字ヲ削リ去リ年號ヨリ以下四行ヲ改刻セルモノナリ

花壇綱目 (享保本)

著者 水野元勝

刊行 享保元年

挿圖 三

製本 竪七寸四分五厘 横五寸二分五厘

題簽 子持四周 竪四寸七分 横一寸〇五厘

『花壇綱目 上』
上楷書 中行書 下草書

匡郭 四周單邊 竪五寸四分 横四寸一分餘

行數 十行

紙員 上卷二十五張 中卷十五張 下卷三十張

上卷表紙見返シ

柳櫻ノ繪中央題簽トシテ二重匡郭内ニ

『華壇綱目』

トアリ、序文平假名交文四張、年號記名ナシ 次ノ一頁ニ牡丹ノ繪題詠前掲本ニ同ジ、次ニ目錄二張半アリ、内題『花段綱目卷上』トアリ、春ノ部ト夏ノ部ヲ收ム、中卷ハ初メニ目錄二張半、次ニ一頁梅ノ繪並ニ題詠、秋ノ部冬ノ部雜ノ部ヲ收ム、下卷ハ初張ニ花段綱目卷下

目錄

- | | | | |
|-------------------------|-----------|-----------------------|-----------|
| 一 諸草可 _レ 養土の事 | 一 梅珍花異名の事 | 一 諸草可 _レ 肥事 | 一 桃珍花異名の事 |
| 一 牡丹珍花異名の事 | 一 櫻珍花異名の事 | 一 芍藥珍花異名の事 | 一 躑躅異名の事 |
| 一 菊珍花異名の事 | 一 牡丹植養の事 | 一 椿珍花異名の事 | 一 蘭植養の事 |
- トアリテ、次ノ頁ニ櫻ノ繪題詠、凡テ前掲本ト同ジ

奥附最終(三十張ノ裏)

水野氏元勝

享保元丙申年菊月吉旦

松井頼母後益志之

大坂心齋橋筋順慶町

柏原屋與左衛門

次ニ大坂書林森本文金堂(河内屋太助)藏版目錄一張ヲ附ス

本書ハ前掲二本ト内容凡テ同ジク且ツ書體モ殆ンド同一ナレドモ匡郭ニ大小アリテ文字モ又自ラ大小アリ、前掲二本ハ同一版木ナルモ本書ハ其後改刻セラレタルモノナリトス (ツヅク)